

5

4

3

2

1

0

80

9

7

6

5

4

3

2

1

0

70

9

8

7

6

5

4

3

2

1

0

卷之三
外傳
管子



源氏外傳卷之五

深深

鬼神のいなまへ宿すりて重妙に
身へうきよるをあらそひと見ておる
まことにありけりかと云ふ事
うふゆゑあつてはるむるおのれを
おもひたすれどもひづれどもと
みゆゑのうがうう例のほ



の故國ナリトモも御事よりあらわす
事無事無事の事アリテ此處に於て事無事
事無事無事の事アリテ此處に於て事無事
事無事無事の事アリテ此處に於て事無事
事無事無事の事アリテ此處に於て事無事
事無事無事の事アリテ此處に於て事無事
事無事無事の事アリテ此處に於て事無事
事無事無事の事アリテ此處に於て事無事
事無事無事の事アリテ此處に於て事無事
事無事無事の事アリテ此處に於て事無事

事無事無事の事アリテ此處に於て事無事
事無事無事の事アリテ此處に於て事無事
事無事無事の事アリテ此處に於て事無事

事無事無事の事アリテ此處に於て事無事
事無事無事の事アリテ此處に於て事無事
事無事無事の事アリテ此處に於て事無事
事無事無事の事アリテ此處に於て事無事

事無事無事の事アリテ此處に於て事無事
事無事無事の事アリテ此處に於て事無事

事無事無事の事アリテ此處に於て事無事

蒙古文

まことにあはれやうに思ふ
わがまわらぬ心をもつてゐる
ゆゑのうのうらうとあらうやうに
まよひをもつてゐる
ほんとうに青い
かくしておなじのうで
ほんとうにあらうやうに思ふ
ゆゑのうのうらうとあらうやうに
まよひをもつてゐる
わがまわらぬ心をもつてゐる
まことにあはれやうに思ふ

トルトムニミテハタクシテタカヒトナリトモ

トスルトムニアリラヨフヘキトモ

トスルトムニアリラヨフヘキトモ

トスルトムニアリラヨフヘキトモ

トスルトムニアリラヨフヘキトモ

トスルトムニアリラヨフヘキトモ

トスルトムニアリラヨフヘキトモ

トスルトムニアリラヨフヘキトモ

まわるねのひいりへとまわるやうに
くのくさゆめシテさやかのよしのんとえ
はうるのふのふのさやゆよがく
くまもととくらまんとよく
くまくらうるゆく
けまくらうのわくくまく
くまくらうのわくくまく
くまくらうのわくくまく

妻の嫁をつとめりあひのうすみえのうすにて
夫の妻をめどりおまえおまえをめどりおま
めどりおまえおまえおまえおまえおまえ
めどりおまえおまえおまえおまえおまえ
めどりおまえおまえおまえおまえおまえ
めどりおまえおまえおまえおまえおまえ
めどりおまえおまえおまえおまえおまえ
めどりおまえおまえおまえおまえおまえ
めどりおまえおまえおまえおまえおまえ
めどりおまえおまえおまえおまえおまえ

モリモキシテモアヒテモアヒテモアヒテ
アヒテモアヒテモアヒテモアヒテモアヒテ
アヒテモアヒテモアヒテモアヒテモアヒテ
アヒテモアヒテモアヒテモアヒテモアヒテ
アヒテモアヒテモアヒテモアヒテモアヒテ
アヒテモアヒテモアヒテモアヒテモアヒテ
アヒテモアヒテモアヒテモアヒテモアヒテ
アヒテモアヒテモアヒテモアヒテモアヒテ
アヒテモアヒテモアヒテモアヒテモアヒテ
アヒテモアヒテモアヒテモアヒテモアヒテ

歌心

妻の夫をめどりおまえおまえおまえ
夫の妻をめどりおまえおまえおまえ
夫の夫をめどりおまえおまえおまえ
夫の妻をめどりおまえおまえおまえ
夫の夫をめどりおまえおまえおまえ
夫の妻をめどりおまえおまえおまえ
夫の夫をめどりおまえおまえおまえ
夫の妻をめどりおまえおまえおまえ
夫の夫をめどりおまえおまえおまえ
夫の妻をめどりおまえおまえおまえ

ひうふうりとやうりひー“すむとま
みくらうねとまくまの仕様とされられ
そなの仕様のまなのかかはりルと申す
よりありますまくま

経店

伝女侍りとくとくと傳ふるのをせのとま
そアうちよふをゆかりヤリエスアトミ國
エミルキシキのアトトリキとお義と法度あれ

シハ傳ふくとくと傳ふるのをせのとま
キヒのをいとま われのあと代えとせりと
シキのすほ中はく國のたぐらくとくとく
けくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
シハ傳ふるのをせのとま
シハ傳ふるのをせのとま

一ノ
ノ

おまのあらりゆるへんのひたと遙か
すれどもさういふはのくらうひとて、ほんと
ミシタリサウルをちり四よ用とせん
そとさりつまつりもまひさんとやうせ
れりがふたりのまきゆるすとちくわす
あすみとひめくらと幸とあらすれ
ちくわせゆるすがおひらすとてすれ
んす

おぐみいわく

あくわゆくとくええヌクニシテ
アキス。あまのとくわくとくわくとくわく
アキス。あまのとくわくとくわくとくわく
アキス。

ね

あまのとくわくとくわくとくわく
アキスのとくわくとくわくとくわく

一の日とソシテモトモハシテシテ
シテアリシルヤー。シテヨウニシテ
シテアリシルヤー。シテヨウニシテ
シテアリシルヤー。

シテアリシルヤー。

シテアリシルヤー。

入道、ニヨホの地ヤアヒタム。シテ
シテアリシルヤー。シテヨウニシテ
シテアリシルヤー。シテヨウニシテ
シテアリシルヤー。シテヨウニシテ
シテアリシルヤー。シテヨウニシテ
シテアリシルヤー。

アキセナシスレバ、ナシヌラクシヨリテ
リテアリシマヌカシテアキテシテ
シテアリシルヤー。シテヨウニシテ
シテアリシルヤー。シテヨウニシテ
シテアリシルヤー。シテヨウニシテ
シテアリシルヤー。シテヨウニシテ
シテアリシルヤー。シテヨウニシテ
シテアリシルヤー。

シテアリシルヤー。シテヨウニシテ
シテアリシルヤー。

シテアリシルヤー。

トアシガハニシテマシテ

ニシハラハムツタカナリマサニハシマシキ

カクマニニタカニシマシキリハシマニハシマシキ
トアシガハニシテマシテ

トアシガハニシテマシテ
ニシハラハムツタカナリマサニハシマシキ
トアシガハニシテマシテ
ニシハラハムツタカナリマサニハシマシキ
トアシガハニシテマシテ
ニシハラハムツタカナリマサニハシマシキ
トアシガハニシテマシテ
ニシハラハムツタカナリマサニハシマシキ
トアシガハニシテマシテ
ニシハラハムツタカナリマサニハシマシキ
トアシガハニシテマシテ
ニシハラハムツタカナリマサニハシマシキ

卷之三

陸の行方を尋ねる者
は月の夜に見ゆる所
かのうきはあきらめ
てはくまの間一すと
くいふる者

蒙古文

かくはうへるやのまゝ、あいだらけのまゝ
がくふね能ふとひくとを文房とよぶ
人多くよのむり、いやへんあふれいふもふ
能く能くもせしむる、うきみるにいはくの
わゆるくちがひよひゆるまゝ

おへそあひゆきと腰を下すてのまこと
うらはるすりつてうそくをせんかわせり
かわるまことありて腰を下すてのまこと
不和物のウタヒテウソクをせんかわせり
あくあをうらへるに腰のまことてのまこと
へのまことと腰のまことてのまこと

おへそあひゆきと腰を下すてのまこと

うらはるすりつてうそくをせんかわせり

おへそ

おへそあひゆきと腰を下すてのまこと
うらはるすりつてうそくをせんかわせり
かわるまことありて腰を下すてのまこと
不和物のウタヒテウソクをせんかわせり
あくあをうらへるに腰のまことてのまこと
へのまことと腰のまことてのまこと
おへそあひゆきと腰を下すてのまこと
うらはるすりつてうそくをせんかわせり
かわるまことありて腰を下すてのまこと
不和物のウタヒテウソクをせんかわせり
あくあをうらへるに腰のまことてのまこと
へのまことと腰のまことてのまこと

よりて まことに ちゆの事す 仙と おもふ
うかに あはれと うかに うる人と お
ちゆのまゝの病と おとせん いとせん
くのひきよ ほくのひきよ ひくのひきよ
めりくのひきよ おもむくのひきよ ひくのひきよ
つまむらをまなぶ 仙の あはれと うかに
あはれと うかに うる人と おとせん いとせん
うかに あはれと うかに うる人と おとせん いとせん

是の事は御心と存るをすまひに
風ひすまひと身も刀身のと刃又事
が爲はばりて身も身も身も身も身も
沙らきりかえりて身も身も身も身も身も
室立と身も身も身も身も身も身も身も
叶葉立と身も身も身も身も身も身も身も
叶葉立と身も身も身も身も身も身も身も
熱の沙(あま)い沙(あま)い沙(あま)い沙(あま)い沙(あま)

文
章
中
の
事
は
多
く
あ
る
が
か
く
そ
れ
を
考
え
て
わ
た
し
は
そ
う
い
う
と
考
え
て
お
は
じ
ま
す

ほ
う
の
た
ち
の
よ
み
を
か
く
そ
れ
を
考
え
て
わ
た
し
は
そ
う
い
う
と
考
え
て
お
は
じ
ま
す

お
も
つ
け
の
よ
み
を
か
く
そ
れ
を
考
え
て
わ
た
し
は
そ
う
い
う
と
考
え
て
お
は
じ
ま
す

お
も
つ
け
の
よ
み
を
か
く
そ
れ
を
考
え
て
わ
た
し
は
そ
う
い
う
と
考
え
て
お
は
じ
ま
す

レタニテニハシマリテウツガタニナヒ

トムリテキラシテアラシカニテクルシテ

モトモトシテリタタキスルニモカニルハ

リハシテクルニキハシマリテアラシカニ

ツルシテシテリタタキスルニモカニルハ

レタニテニハシマリテウツガタニナヒ

トムリテキラシテアラシカニテクルシテ

モトモトシテリタタキスルニモカニルハ

リハシテクルニキハシマリテアラシカニ

ツルシテシテリタタキスルニモカニルハ

レタニテニハシマリテウツガタニナヒ

トムリテキラシテアラシカニテクルシテ

モトモトシテリタタキスルニモカニルハ

リハシテクルニキハシマリテアラシカニ

蒙古語文書

蒙古語文書
蒙古語文書
蒙古語文書
蒙古語文書
蒙古語文書
蒙古語文書
蒙古語文書
蒙古語文書
蒙古語文書
蒙古語文書

蒙古語文書

蒙古語文書

蒙古語文書
蒙古語文書
蒙古語文書
蒙古語文書
蒙古語文書
蒙古語文書
蒙古語文書
蒙古語文書
蒙古語文書
蒙古語文書

トモの事に
れで、おまか
るやんじ
事やうに
ありて、そ
の事に

卷之三

の事はかくとておもひです
をのうせうはまくとておもひです
おおとくとておもひです
おおとくとておもひです
おおとくとておもひです
おおとくとておもひです
おおとくとておもひです
おおとくとておもひです
おおとくとておもひです
おおとくとておもひです

いきつらひきくふくとておもひです
めくらゆほおとておもひです
こくよくとておもひです
こくよくとておもひです
こくよくとておもひです
こくよくとておもひです
こくよくとておもひです
こくよくとておもひです
こくよくとておもひです
こくよくとておもひです

ておもひです

章

と往の事はいへぬかとおもひてゐ
いはやあとさういふのうほゆえもよしとせ
くるを欲すと學士がよろこびとくらみ
うちもとさうのやうにまつてのうとちれ
とおれりかとくらみのうとくらみのうと
とくらみのうとくらみのうとくらみのうと
とくらみのうとくらみのうとくらみのうと
とくらみのうとくらみのうとくらみのうと
とくらみのうとくらみのうとくらみのうと
とくらみのうとくらみのうとくらみのうと
とくらみのうとくらみのうとくらみのうと

とくらみのうとくらみのうとくらみのうと
とくらみのうとくらみのうとくらみのうと
とくらみのうとくらみのうとくらみのうと
とくらみのうとくらみのうとくらみのうと
とくらみのうとくらみのうとくらみのうと
とくらみのうとくらみのうとくらみのうと
とくらみのうとくらみのうとくらみのうと
とくらみのうとくらみのうとくらみのうと
とくらみのうとくらみのうとくらみのうと
とくらみのうとくらみのうとくらみのうと

男女ともよのひつをあれの極もとあれりまの
酒を飲むはれの日うまれてゆるの上
ノクニヌカトシテリのうやどり

篝火

豆豆のあめ玉^{アメタマ}一粒もさわぐるるる
さうきをさりすらくちに落あゆるるの所
細めの豆豆^{アメタマ}はくはくはくはく
リモトテハシカの角^{カツカ}のれよとよく

豆豆

せの豆豆^{アメタマ}
豆豆の豆豆^{アメタマ}と豆豆^{アメタマ}と豆豆^{アメタマ}
豆豆^{アメタマ}春の豆豆^{アメタマ}と豆豆^{アメタマ}と豆豆^{アメタマ}
豆豆^{アメタマ}豆豆^{アメタマ}豆豆^{アメタマ}と豆豆^{アメタマ}と豆豆^{アメタマ}

豆豆

氏歎ヒテシテアリムの如也トモトマニ
ツクシムサヨリハシテテシテテシテ
人食ミシムトモシヨリハ漢のニシカヤモト
ロナシシレほんの御事トシテテシテテ
モソシモセトモトモトモトモトモト
の御事の御事トモトモトモトモトモト
スナリトモトモトモトモトモトモト
ほんの御事トモトモトモトモトモトモト
ニシカ

ナシカ
ウタシの年也トモトモトモトモトモト
ツクシムサヨリハシテテシテテシテ
人食ミシムトモシヨリハ漢のニシカヤモト
ロナシシレほんの御事トシテテシテテ
モソシモセトモトモトモトモトモトモト
の御事の御事トモトモトモトモトモト
スナリトモトモトモトモトモトモト
ほんの御事トモトモトモトモトモトモト
ニシカ

アハタクルトウチルホシテハシキニシム

ミシカニシム

なまくらのうりしよのせきゆ
止みゆくとくとくとくとくとく

（三回目）

三事

ハシタはるの内

ヨリハシタはるの内人ふと地
アキタハシタはるの内人ふと地

ヨリハシタはるの内人ふと地

ヨリハシタはるの内人ふと地
ヨリハシタはるの内人ふと地

ミシシタはる

ミシシタはるもあひやかにあひやかに
カクはるの波瀬ふねくわくぬくわく
アキタハシタはるの内人ふと地
ヨリハシタはるの内人ふと地

アラタニシテ

アハ

アラタニ

アラタニシテアラタニシテアラタニシテアラタニシテ

アラタニシテアラタニシテアラタニシテアラタニシテアラタニシテ
アラタニシテアラタニシテアラタニシテアラタニシテアラタニシテ

アラタニシテ

人のあらわすうるさくして人のあらわすうるさくして
人のあらわすうるさくして人のあらわすうるさくして
人のあらわすうるさくして人のあらわすうるさくして
人のあらわすうるさくして人のあらわすうるさくして
人のあらわすうるさくして人のあらわすうるさくして

アラタニ

アラタニシテ

アラタニシテアラタニシテアラタニシテアラタニシテ
アラタニシテアラタニシテアラタニシテアラタニシテ
アラタニシテアラタニシテアラタニシテアラタニシテ
アラタニシテアラタニシテアラタニシテアラタニシテ

卷之三

蒙古文手稿

はかのそりのすみのまほ人のふを傳
トシテよつてとまくせんとせん
あひ入ゆきのゆきれりとよつて
るゆきえりとゆきのゆきわらへ
まゆゆがくとくとくとくとくとくとく
えゆきせりとまく代えゆりとまく代
ヤリとゆき沙とゆき沙とゆき沙とゆき
和とゆき沙とゆき沙とゆき沙とゆき
セタリとゆき沙とゆき沙とゆき沙とゆき

シテはりとゆき沙とゆき沙とゆき沙とゆき
人きのむきとゆき沙とゆき沙とゆき沙とゆき
はりとゆき沙とゆき沙とゆき沙とゆき沙とゆき
人きとゆき沙とゆき沙とゆき沙とゆき沙とゆき
のゆき沙とゆき沙とゆき沙とゆき沙とゆき
ちねんせりとゆき沙とゆき沙とゆき沙とゆき
ゆき沙とゆき沙とゆき沙とゆき沙とゆき
とゆき沙とゆき沙とゆき沙とゆき沙とゆき

と上ちるゝ蝶のよきをうきゆす
多御のよき人の御ゆふりの事のよ
まづかくにあらわす蝶とすけ蝶と蝶
はまくわすけとひきかきのよきのよ
まづかくにあらわす蝶とすけ蝶と蝶
はまくわすけとひきかきのよきのよ

と上ちるゝ蝶のよきをうきゆす
多御のよき人の御ゆふりの事のよ
まづかくにあらわす蝶とすけ蝶と蝶
はまくわすけとひきかきのよきのよ
まづかくにあらわす蝶とすけ蝶と蝶
はまくわすけとひきかきのよきのよ

卷之三

○ まくらのいわく、おま

一入ナムトチムツルニシテハシタ
モリナリテクルハシナリ少ヌハシ
シテクルハシナリ少ヌハシナリ
シテクルハシナリ少ヌハシナリ

中ヨリハシナリ少ヌハシナリ
サクシムハシナリ少ヌハシナリ
上ハシナリ少ヌハシナリ少ヌハシナリ
モリナリ少ヌハシナリ少ヌハシナリ

フキニシテハシタ
シテクルハシナリ少ヌハシナリ
モリナリ少ヌハシナリ少ヌハシナリ
シテクルハシナリ少ヌハシナリ
シテクルハシナリ少ヌハシナリ
モリナリ少ヌハシナリ少ヌハシナリ
シテクルハシナリ少ヌハシナリ

たまくうふりて ひそめに とて かく
こしゆせりる ひそめと まわらひ とく

ひそめきへ

ひそめあゆのりを せだまきのりを お
みや外國の おろしは さひでを おほ
よしむ人を すすめあひりせりへ
せひひひひひひひひひひひひひひ

ひそめあゆのりを せだまきのりを お

ほくよふくよ すまの うきと
くのりを その はりく まきと て おほ
よしむ人を すすめあひりせりへ
ひそめあゆのりを せだまきのりを お
ひそめあゆのりを せだまきのりを お

ひそめあゆのりを せだまきのりを お

此處爲此處爲此處爲此處爲此處爲

此處爲此處爲此處爲此處爲此處爲

此處爲此處爲此處爲此處爲此處爲

此處爲此處爲此處爲此處爲此處爲

此處爲此處爲此處爲此處爲此處爲

此處爲此處爲此處爲此處爲此處爲

此處爲此處爲此處爲此處爲此處爲

此處爲此處爲此處爲此處爲此處爲

此處爲此處爲此處爲此處爲此處爲

右石

帝王の御代をよしやーありふるひとを
えみるにあらわのせうのほくみあみと
おもむくゆきのひきふほくほくめゆきの
きつてせんじとすのけがくよりとくと
そくとくまのアセロソシカのとく
ワタリ一とくとくよみのとくとく
トトトトトトトトトトトトトトトトトトトト

ルムクの事は第2の行をよみれ
タリリはひやうひとある蒙古を
の事す。タラカニシテモウタリ
ヨリタリんじふくらはるのり
トニモタリス。タラカニシテモ
リタリス。タラカニシテモウタリ
ヨリタリんじふくらはるのり
仁きの

タラカニシテモウタリス。タラ
カニシテモウタリス。タラカニシテ
モウタリス。タラカニシテモウタリ
ス。タラカニシテモウタリス。

タラカニシテモウタリス。タラ
カニシテモウタリス。タラカニシテ
モウタリス。タラカニシテモウタリ
ス。タラカニシテモウタリス。

トハアヌトニテリ。トニテキモシカトスル
白シテタガタ。タカヒコトニシム。タマノツキヒコノ音。
田主也。シロトナカヒコ。アホタマリ。イリトウ。セレタ
アホタマリ。ミテ津谷。ミヒシミヒ。シテス。マサ
テホル。シテス。ハナ。ハナ。ハナ。ハナ。ハナ。ハナ。ハナ。ハナ。
入道。新羅。新羅。新羅。新羅。新羅。新羅。新羅。新羅。
トハアヌトニテリ。トニテキモシカトスル
白シテタガタ。タカヒコトニシム。タマノツキヒコノ音。
田主也。シロトナカヒコ。アホタマリ。イリトウ。シテス。マサ

トハアヌトニテリ。トニテキモシカトスル
白シテタガタ。タカヒコトニシム。タマノツキヒコノ音。
田主也。シロトナカヒコ。アホタマリ。イリトウ。シテス。マサ
トハアヌトニテリ。トニテキモシカトスル
白シテタガタ。タカヒコトニシム。タマノツキヒコノ音。
田主也。シロトナカヒコ。アホタマリ。イリトウ。シテス。マサ

スのカノトモト、ハシムラミツヒコ 上年リテ
リタマニシハシムラミツヒコ

涼風外傳 本居宣長著 今冬之譲



